

令和2年度教育事業 そに森のキッズキャンプ



スケジュール

主なスケジュール	
1日目	榛原駅北口（集合） はじまりの会 昼食（おにぎり弁当） 森の自由遊び 夕食（食堂） キャンプファイアー
2日目	朝のさんぽ 朝食（食堂） 森の自由遊び 昼食（野外給食） おわりの会

1. 目的

自然のなかで思い切り遊ぶことを通して、生活のリズムを整え、自然への興味、関心を高める。

2. ねらい

- ①幼児に自然体験と生活体験を提供する
- ②幼児の自然環境を活かした運動遊びプログラムの実践の機会とする
- ③森林を場にした環境教育（自然にふれ、思い切り遊び、感じる）の機会とする

3. 実施日

- ①夏のキャンプ
令和2年7月11日（土）～7月12日（日）
- ②秋のキャンプ
令和2年10月17日（土）～10月18日（土）

4. 対象者

幼稚園・保育園 年長児

5. 参加者 / 募集定員

- ①13名 / 16名
- ②11名 / 16名

6. プログラム（要約）

自然環境の中で自分の意思で遊びを決めていく、「森の自由遊び」を中心に、プログラムを組み立てた。4人程度の小集団で生活し他者との関わりを学び、保護者から離れての宿泊など、自然体験、生活体験の機会とした。

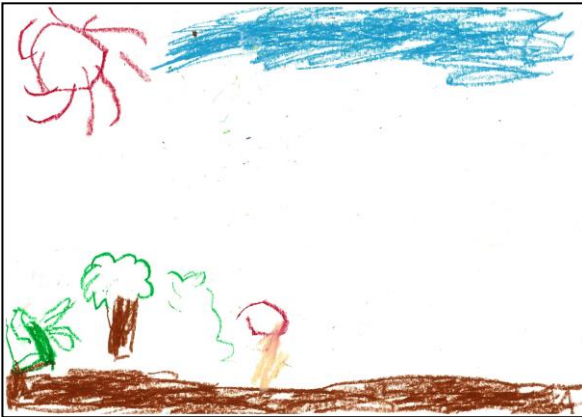
森の中から、木や葉を集めてきて造形をしたり、たき火をしたり、まきわりをしたり、スラックラインをつかった綱渡りをしたり、夜はすぐに寝てしまうほど、思い切り遊ぶことができた。



7. 調査

事前と事後に絵をかいてもらい、その違いについて比較し、どのように体験が意識づけられているかを考察した。

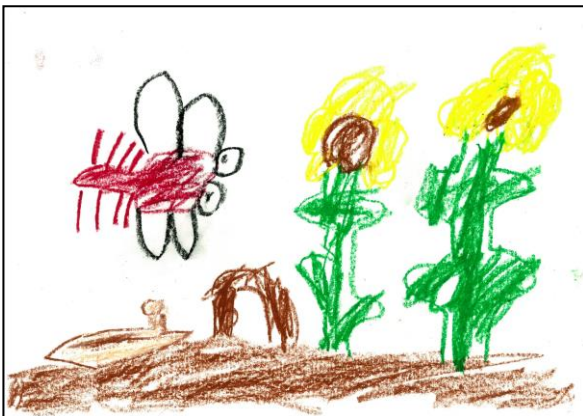
①事例1 A児（女児）



上：キャンプ前に描いた絵
下：キャンプ後に描いた絵

人が多く描かれており、その顔は笑顔になっている。他者の認識がされたことがわかる。また、木の絵が大きくなった。木を身近に感じ、間近で見てA児にとって木のサイズ感が変わったことがわかる。

②事例2 B児（男児）



上：キャンプ前に描いた絵
下：キャンプ後に描いた絵

トンボや花など、B児がこれまでに見てきたような風景が描かれていた。事後では、中心にたき火が描かれていて、火は2色で描かれている。事前には描けてなかった空が描かれてあり、キャンプ中に空に気付くことがあったと思われる。

8. 保護者アンケートから

- ・大きな声で「ただいま！」と帰ってきました。「楽しかった！」と自信にあふれた顔でした。帰ってきた夜はいつもよりもっと甘えた様子で自分でできることも「やってー」とおねだりしてきました。翌日、保育園の先生に一人で参加できたことを誇らしげに伝えていました。
- ・大きな声で元気にあいさつができるようになったと思います。声小さくあいさつしても相手に伝わらずということが今まで多かったのですがびっくりです。玄関先のくつやトイレのスリッパをそろえてくれることが増えました。

9. まとめ

今年度からの新たな取組となったが、森の子キャンプ（低学年）のノウハウを生かし実施できた。幼児の生活面や活動面を支えることを通してリーダー（ボランティア）の成長にもつなげることができた。コロナ禍の影響もあり定員には達しなかったが、参加者への効果も見えた。保護者にとっては、いったん離れて参加者を見ることで、新たな気付きを得られたという効果もあり、成果のある事業になったと思う。体験の「何が」参加者を成長させていくのかをこれからの視点とし、継続して取組を進めたいと思う。

（企画指導専門職 高瀬 宏樹）